

新型インフルエンザ対策 Q&A

新型インフルエンザは怖い？

新型インフルエンザの毒性は通常の季節性インフルエンザと変わらないと言われています。ただ、新しく登場したウィルスですので、感染率が高いことが特徴です。感染はくしゃみや咳などによる飛沫（ひまつ）感染と接触感染です。普通のインフルエンザと同様に対処してください。感染したからといってあわてず、冷静に対応し、治療を受け、休養するようにしてください。

テレビで亡くなった人がいると報道されていますが？

「厚生労働省 新型インフルエンザ対策情報（英語版もあり）」や市町村の保健所などに問い合わせ、正確な情報を得てください。マスコミで頻繁に死亡情報が出されていますが、今のところ、新型インフルエンザが季節性インフルエンザより死亡率が高いという情報はありません。早めの治療が有効です。

多くの人は軽症ですんでいるようですが、たまに新型インフルエンザはウィルス性肺炎を起こすことが分かってきました。この場合、命に関わる重篤な状態になる可能性が大きいので、緊急入院が必要となります。

どんな症状がでますか？

のどの痛み、鼻汁、咳、くしゃみ、頭痛、寒気などとともに発熱が見られます。筋肉痛、腹痛などの症状も現れます。

胸の痛み、呼吸困難などの症状の場合、ウィルス性肺炎の疑いがあります。

感染かな、と思ったら？

39度以上の発熱、頭痛、関節炎の症状が出始めたら、すぐに県、市町村の保健所（発熱相談センター）などに電話で問い合わせ、どの病院で治療すればよいのかを確認してから、病院に行ってください。

さい。タミフルなどの治療薬が有効です。医師に処方された薬は医師の指示に従って最後まで服用するようにしてください。その間、

ミサ、仕事は休み、体をゆっくりと休めてください。

くしゃみや咳が出る時はティッシュやマスクを使いましょう。使ったマスク、ティッシュなどは蓋のついたゴミ箱に捨てるようにしましょう。

予防するには？

通常のインフルエンザと同様です。

バランスのよい食事で体調を整え、抵抗力をつける

うがいや手洗い

マスクなどの着用

人ごみを避ける・・・など

海外出張、旅行は？

海外や国内に出かけたとき、飛行機などでの機内感染の可能性が高いので注意してください。

1週間は自分の体調をよくみてください。その間、ミサや人の集まる場所は避けてください。その上で通常の生活に戻すようにしてください。

司牧者、奉仕者は海外出張の直後の1週間は人との接触はなるべく避けてください。帰国直後の主日のミサは信徒の司式による集会祭儀を勧めます。信徒の皆さんもその点を理解し、協力してください。

聖体拝領は？

新型インフルエンザが流行の兆しがあるときには、口で受ける聖体拝領は止めて手で受けるようにしてください。また、御血の拝領は中止してください。

司祭の判断によって聖体を配る司牧者がマスクを着用するなどの感染予防することもできます。

病床訪問は？

病床訪問のときには、病者が感染しないように、また、訪問する司牧者も感染しないように注意してください。

司牧者、奉仕者は自身が感染している場合には日程をずらす、他の司牧者に交替する配慮が必要です。

互いに健康に気をつけて、通常の教会活動を行ってください。

(2009年9月18日

谷 大二記)